

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

JRC・インターアクト部

高校生ボランティア・アワード2022



四ツ葉学園中等教育学校のある伊勢崎市には「伊勢崎銘仙」という伝統工芸品があります。伊勢崎銘仙とは、蚕がつくる繭から採れる太い糸をよこ糸として用いた、丈夫な平織物のことです。伊勢崎銘仙は、明治・大正・昭和の時代にふだん着、おしゃれ着として日本の女性たちの間で流行しました。着物の染色方法は、大きく分けて2つあり、織る前に糸に色や柄を付ける「先染め」と織った後の反物に柄をつける「後染め」の方法があります。伊勢崎銘仙は「先染め」の平織り絹織物で、たて糸に柄をつけるだけではなく、よこ糸にも柄をつけ、手織り機でたてとよこの糸を1本1本併せて織り合わせ、柄をつけることが大きな特徴です。こうすることで、より多くの色や模様を作り出すことが可能となりました。



学校で愛され続けるコラボパン

2021年11月2・3日に、本校の校内でパン販売をしているパン屋さんコラボしたパンを販売しました。この活動では、パン屋さんの販売希望価格に10円上乗せした形で販売し、上乗せされた10円分をユニセフなどのNPO法人に寄付をしています。9回目の今回は本校の「槻ノ輪祭」(文化祭)に合わせて、焼きそばパン・カレーパン・チュロス・抹茶ホイップパンを2日間販売しました。

初日は、カレーパン205個と抹茶ホイップパン230個を販売しました。2日目は、焼きそばパン160個とチュロス300本を販売しました。合計8950円を今年はユニセフに寄付しました。

企画・運営に携わった部員からは次のような感想が出てきました。「新型コロナウイルスの影響で様々なことが制限されている中で、募金活動を行い、社会に貢献することができてよかったです。」「パンを販売することで募金する方も、される方も笑顔になるいい企画なので、またやってみたいです。」

来年以降も継続してこの活動を実施していきたいと考えています。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



ウクライナ募金

2022年2月24日に始まった、ロシアのウクライナへの侵攻。無差別攻撃は現在でも進行しています。私たちはウクライナを支援するための行動を起こしたいという考えから、ウクライナ募金を実施しました。ウクライナ募金は全部で2日間行い、1日は赤十字社へ、もう1日はユニセフへ寄付をしました。初日は48,465円、2日目は38,166円、合計で86,631円もの金額が集まりました。

このお金は、全額ウクライナの子どもの命や健康、戦争で傷ついた心を回復させるために使用されます。

私たちが今までで行ってきた募金活動の中で一番高い金額のお金が寄付でき、現地には行けないなりに大きな支援が出来たと思います。

部員からは「今回のウクライナの募金活動では、多くの人が協力してくださったので普段の倍以上寄付金が集まりました。この寄付金が、今苦しんでいる人々の役に立つことができたら嬉しいです。メディアや社会の中の情報に振り回されずに自分の意見も取り入れて「中立」の立場で物事を考えようと思いました。」という意見を聞くことができました。



イベントを通して盛り上げる！！

地域のイベントでは「まゆクラフト」という、蚕の繭を使って工作をし、来場者が作るお手伝いをし、まゆクラフトを通して伊勢崎銘仙を広める活動を行っています。伊勢崎市には主に伊勢崎銘仙に関連するイベントが4つあります。私たちはその4つのイベントで、まゆクラフトを来場者に教えるボランティア活動を行っています。近年は新型コロナウイルスの影響により、それらの活動に参加することができていませんが、実施する際は、子供から大人まで幅広い人たちに教えるため、説明の仕方には特に気を付けるようにしています。特に小さな子供に説明するときには、実際に私たちがお手本を見せてから作ってもらうようにしています。また、ハサミやカッターなどを使う工程もあるので、できるところは作ってもらうようにしながら、手伝ったほうが良いと判断したときには適度に手伝うようにしています。

昨年度は、文化祭企画でまゆクラフトを実施しました。白い繭を染めてカラフルな繭を用意しました。文化祭を通して初めて繭に触れる方が多く、まゆクラフトと伊勢崎銘仙に興味を持っていただく良い機会となりました。

これからも、まゆクラフトを通して、多くの人に伊勢崎銘仙や伊勢崎市の伝統を知ってもらおうきっかけにしていきたいです。



ウクライナ緊急募金

実施します!
3月17日(木)と3月18日(金)
昼休み各クラスをまわります。

今後の展望 私達の果たすべきこと

昨年度、3年に一度の文化祭が開催され、地域社会、国家及び世界の問題についての知識と理解を深めるべく活動を行ってきました。今は新型コロナウイルスの影響で何事も期待通りにいかない生活が続いています。しかし、そんな時だからこそ私たちにできることは何かを考え、これまでの経験と学生ならではの視点を活かして積極的な活動をしていきたいと考えています。そのために、まずは本校のことに目を向け、普段の活動から一つ一つ丁寧に活動していきたいです。普段から目標を持ってしっかりと取り組む気持ちが、大きな活動にも繋がる事だと私たちは信じています。

そして、昨年度行った文化祭の運営を通して、自分たちで考え、実行する難しさを実感しました。コラボパンの企画・販売は今回で9回目になりました。しかし、毎年試行錯誤の連続で、未だにしっかりとした運営方法が定まっていないと思います。今後もコラボパンという活動を継続して行っていく、その時の状況に臨機応変に対応しつつ、この活動を広めていきたいと考えています。

また、文化祭で実施したまゆクラフトは、今回初めての取り組みでした。生徒の中でも、まゆクラフトや伊勢崎銘仙についてあまり知らない人が多くいたため、今回の活動はまゆクラフトや伊勢崎銘仙について知ってもらう大きな一歩になったと思います。まずは本校の生徒にまゆクラフトについて知ってもらう機会を設けながら、地域のイベントが再開された際には、地域の方やイベントの来場者など、より多くの人に知ってもらいたいと思います。

活動団体プロフィール

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校JRC・インターアクト部は現在15名で活動しています。主な活動内容は、校内清掃、エコキャップ回収です。今は新型コロナウイルスの影響で校外での活動はあまりできていませんが、通常は休日に募金活動や地域のイベントのお手伝いなど、様々な活動に参加しています。

私たちは部員全員が常に問題意識をもって自分たちができることは何か考え、「気づき・考え・行動する」を基本理念としていて、活動の場を広げています。

